

平林金属ク 上昇気流

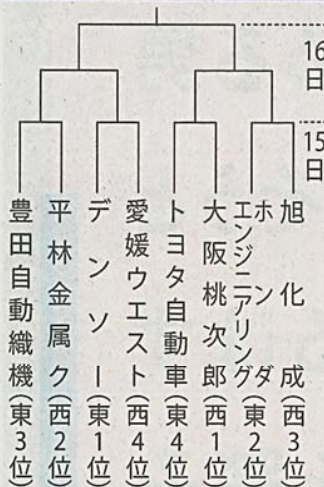
ソフト男子日本一 あすから決勝T

2年ぶり日本一を目指す



2年ぶりの日本一に向け気持ちを引き締める平林金属クのナイン。H I R A K K I N ライズ球場

決勝トーナメント組み合わせ



ソフトボール男子の日本リーグ決勝トーナメント(15、16日・愛知県豊田市)に、平林金属ク(岡山市)が3年連続で出場する。西日本リーグを13勝3敗で2位通過。リーグ最終節を3連勝で飾るなど上昇気流に乗っており、2年ぶり3度目の日本一を狙う。

決勝トーナメントは東日本、西日本両リーグの各上位4チームが出場。平林金属クは1回戦で日本代表右腕を擁する豊田自動織機(東日本3位)

と対戦する。東日本覇者のデンソーとも同じゾーンで、勝ち上がれば今季2戦2敗で西日本主座を譲った大阪桃次郎が、長崎国体決勝で敗れた旭化成(西日本3位)との頂上決戦が予想される。

平林金属クは戦力が充実する。本塁打は松田が西日本1位の10本、小見山が8本とチームでは30本超。松本、西山ら打率3割を超える選手も多く、西日本2位の101得点を挙げた強力打線が売りの太田、2年目の1年目の尾崎は長打力が魅力で、2年目新井の俊足も大きな武器だ。吉村監督は「若手が戦力になってきた。選手の状態を見極め、相手に応じて起用したい」と戦略を練る。

長崎国体決勝はタイプレックで迎えた再三の好機にあと1本が出なかった。延長九回は3番松田、4番小見山が連続敬遠され、1死満塁としながら無得点。凡打に倒れた松本は「国体の悔しさをぶつけ、ここぞという場面け」と気持ちを引き締める。(村上達也)